

## 厳島神社奉納 古武道演武大会に参加して

至誠館 渡邊 祥正

「神宿る悠久の島」山の気、空と海、大地、宮島の神域は、潮風に清められ、風が木々を揺らし、葉ずれの音に神気を感じ、居住まいを正し、心清く、神に祈る。

古より、多くの人々の崇拜と畏敬の念を集めてきた厳島神社祓殿において「第二十一回宮島厳島神社奉納古武道演武大会」が開催され、参加の許をいただきました。

平安の雅を今に伝える殿内では、一如の太鼓の音が響き渡り、報告祭が執行され、戦後七十年を迎えた本年、今日の日本の礎を築かれた先人、日本の将来のために命を落とされた英霊に誠を捧げ、世界の恒久平和と日本の隆昌、今大会の成功と本会の繁栄、会員の安全が祈念され、副総裁桑原兵充先生ならびに代表理事濱田鉄心先生が太玉串を奉り、会員一同心ひとつに祈り合いました。開会式では、平和意識の低下、希薄化を踏まえ、私たち一人ひとりが平和の大切さを考える機会となるようお言葉が述べられ、代表理事濱田鉄心先生の力強い御言葉に参拝者までもが足を止め、お話に耳を傾けられ殿内は静寂に包まれました。これまでの私は、大日本武徳会会員というよりも所属する至誠館の一会員として出場していました。この荘厳な中に立ち合い武徳会会員としての自覚と誇りを覚醒する良い機会となりました。

奉納演武では、私たち道場に下命された出番は、プログラムの一番目でした。祓の儀を兼ねた出番と聞かされ、喜びと共に緊張感で胸が締め付けられる思いでした。御神前にて神気を感じながら、自分自身の心技体を表すこと。平常心、気持ちのコントロールをすること。高ぶること無く、頭の中で技の整理、心の準備に努めました。

愈々、出番に身も心も引き締まりました。一番目としての使命は、後に演武される先生方がより良い緊張感と向上心の中で演武しやすい環境を整えることだと考え、藤井先生はじめ道場の仲間と共に不動心で挑みました。

祓殿は、稽古時と異なり、薄暗く、前方周囲の動きが見づらく、合わせにくい状況でした。しかし、そうではなく他の先生方の呼吸や心を思い合いながら動きを読むのに、とても良い条件が整っていると考えました。目で見ることを諦め、心で見えることに集中したところ、自分の一刀一刃が伸び伸びと振ることが出来たと思います。現代でありながら、先人たちと同じ空間を共有できたような気がしました。

今大会が二十一回目という新たな歴史を刻む大会となり、本会が創設百二十周年、アメリカ支部創立五十周年という喜ばしい節目の年を迎えて平和の尊さ、戦わないことの大切さを考える良い機会となり、充実した大会となりました。

厳島神社の大神様の御加護のもと大日本武徳会の先生方はじめ藤井先生には、本大会出場の許をいただき、心から感謝し御礼申し上げます。一般社団法人大日本武徳会の会員として恥じぬよう修練に励み、日々精進してまいります。